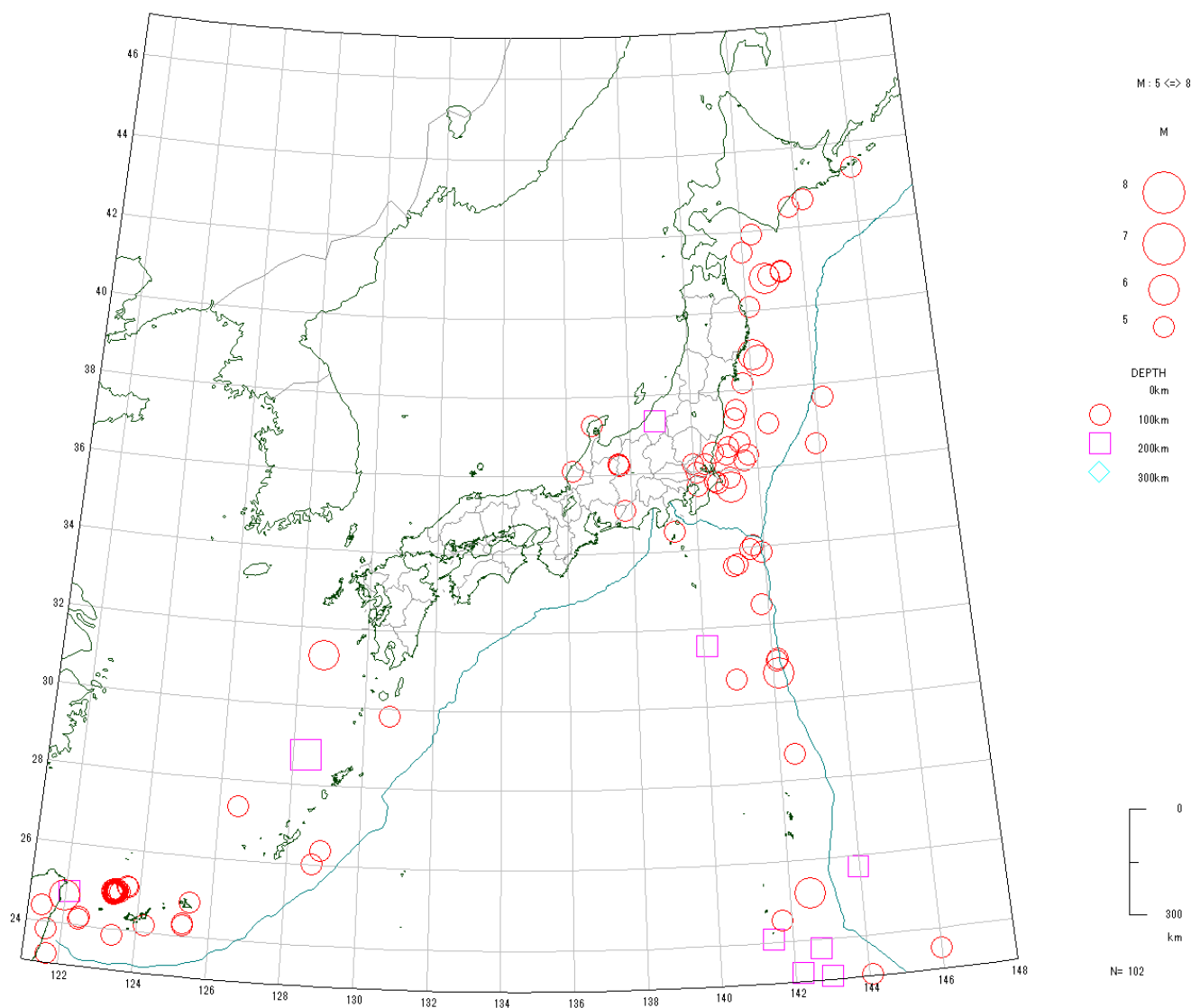


2020年の地震活動概観

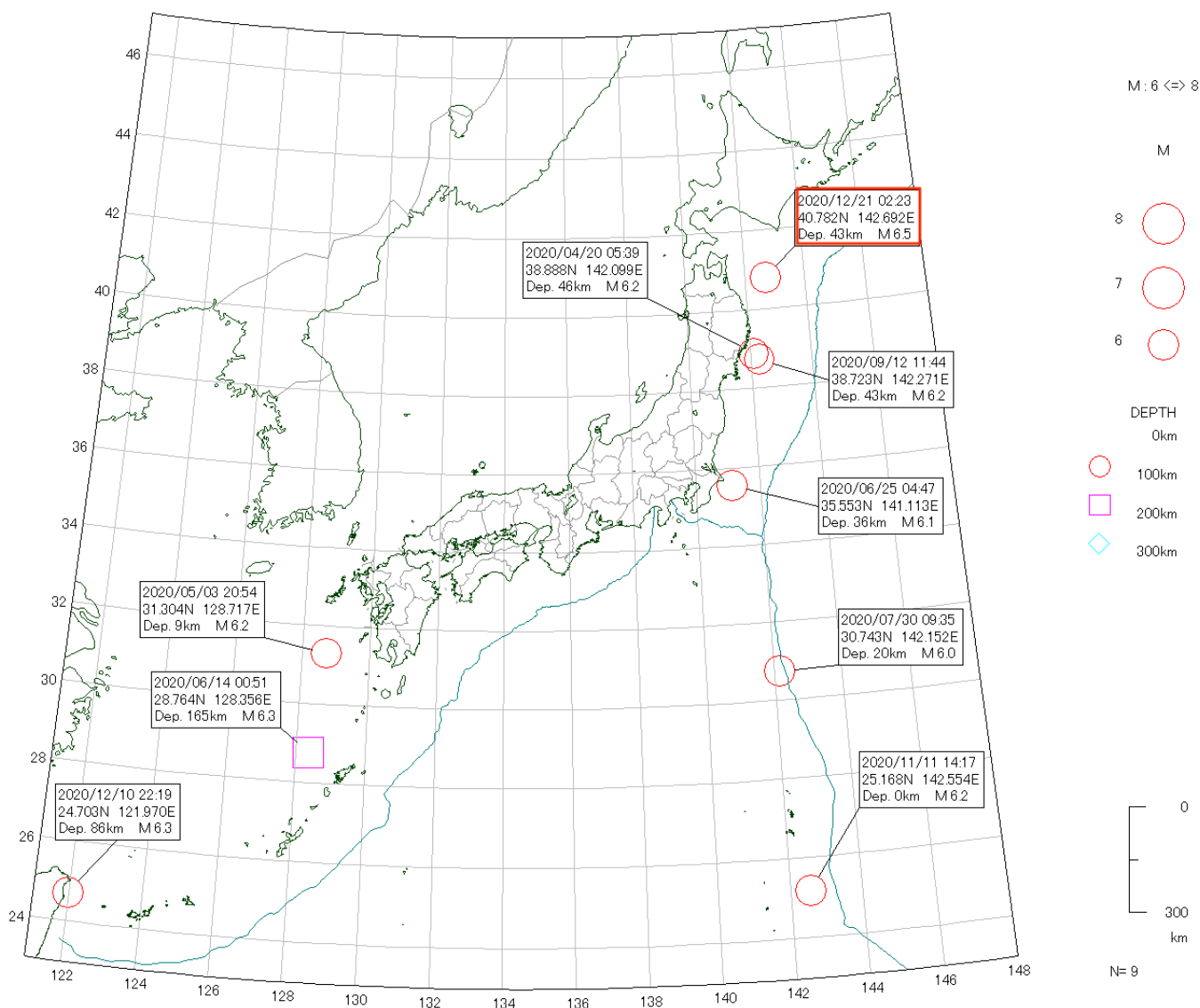
2020年は先週も触れましたが、日本列島およびその周辺での地震活動は概ね静かな状態で推移しました。

次にお示ししますのは、2020年に発生したマグニチュード5以上の地震です。深さ300kmまでに発生した地震は1年間で102個発生しました。地域的には茨城・千葉周辺で数多く発生していた事がわかります。また南西諸島の西表島北西海域で6月に関わりとまった活動があった事が特徴として挙げられると思います。

2020 1/1 0:0 — 2020 12/31 23:59



次のページには2020年に発生したマグニチュード6以上の地震をお示しします。先週のニュースレターでもお伝えしましたが、結果として2020年に発生した最大の地震は12月21日に青森沖で発生したマグニチュード6.5の地震でした。中部地方から九州(陸域)までの地域では、結果としてマグニチュード6以上の地震は発生しなかった事がわかります。この地域で総計9個の地震が発生しました。

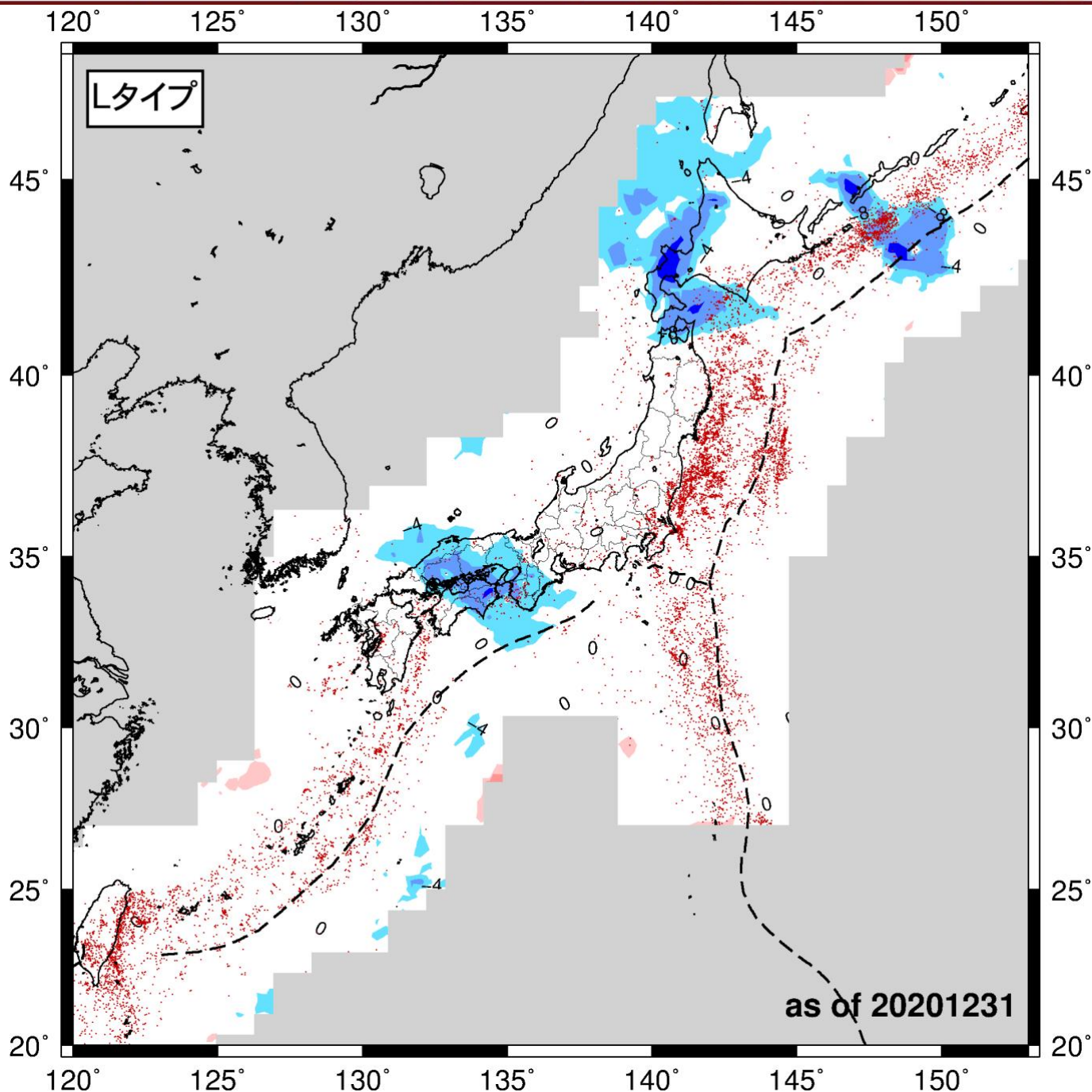


ちなみに2019年はマグニチュード6を超える地震は14個発生しており、やはり2020年は地震活動が低調な1年であったと言う事ができるかと思います(2019年の地震活動概観は1月13日のニュースレターをご覧ください)。

https://a5cf5704-7cd8-4131-ba92-da2f618f8aee.usrfiles.com/ugd/a5cf57_d61e19b14cea4c63b3b7c2395b274cff.pdf

日本およびその周辺の広域地下天気図®

11月23日のニュースレターに続き、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。主にマグニチュード7以上の地震発生を対象とした解析となります。次にお示しする図が12月31日時点のLタイプ地下天気図です。



この広域の解析では、マグニチュード3.5以上の東日本大震災以降に発生した地震を用いて解析しています。現在気象庁の地震データを用いて解析できる最大の範囲となります。

11月の段階と地震活動静穏化（図中で青で示した範囲）は、顕著な変化はありませんが、北海道東方沖（択捉島沖合）での静穏化がかなり進んでいる事が判明しました。

西南日本の広域的な静穏化も目立ちますが、先週の12月28日のニュースレターで西南日本についてはより長期間（約20年間）のデータを用いての解析では、当該地域の静穏化はそれほど顕著ではありません。解釈に悩む所ですが、いずれが正しい/間違っているというものではありません。

地下天気図以外のデータ（例えば深部低周波微動というような現象）も勘案して日本列島の地下で何が起こっているのかをお知らせしていきたいと考えています。